

平成26年度 特別推進研究 審査の所見

研究課題名	極低温干渉計で挑む重力波の初観測
研究代表者	梶田 隆章
審査の所見	<p>本研究は、極低温技術等を駆使して高感度重力波観測装置を新たに開発し、世界に先駆けて天体起源の重力波の直接検出を目指すものである。</p> <p>応募者らは、重力波観測において世界最高感度を達成することを目指し、地下への設置や極低温鏡の有効性を実証するなど着実に成果を挙げている。本研究の目指す重力波の直接検出は、現在の物理学の最重要課題の一つであり、ニュートリノ観測によってニュートリノ天文学が生み出されたことと同様に、重力波天文学が創成されることも期待し得る。さらに、厳しい国際競争の中で我が国が重力波の初検出を成し遂げることへの大きな期待も込め、特別推進研究として相応しい課題であると判断した。</p>